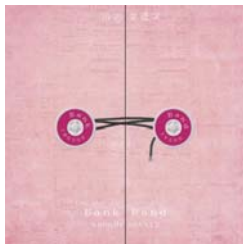


聴いて、読んで ちょっとだけ観る！

とりあえず「はるまついぶき」を聴く ❀❀



この歌を聴くのはなかなか難しい。

ダウンロードするか、Bank BandがMステに出演した10月のTV録画を見るか、Caccoに違法コピーを頼むか、1月16日を楽しみに待つか。その日になればアルバム「沿志奏逢2」が発売になります。その10曲目が「はるまついぶき」。あとは、そう、映画「ミッドナイトイーグル」を観に行けばいいのです！！



聴いたら、小説 **ミッドナイトイーグル** を読む 📖📖📖

だいたいこの手の小説は通常は読まないんだけど。この分野はうさおのお得意分野です。北アルプスにかかる月を撮影に行った元報道カメラマン西崎は、夜空に火の玉のような輝きと、続けて響く爆発音を聞く。やがて、その火の玉は米空軍のステルス爆撃機と判明。事件を隠そうとする日本とアメリカのトップたち。暗躍する北朝鮮工作員、中国の影。西崎の別居中の妻慶子は雑誌のライターとして、北朝鮮の工作員と接触し、北アルプスに墜落した戦闘機事件との係わりを深めていく。そして、ついに西崎が発信した猛吹雪の中からのSOSをキャッチする。国際謀略サスペンスと呼ぶらしい。そこに家族愛が入り組んで面白く読ませます。

ラストの西崎はとてがかっこいい。ちょっと惚れます。でもね、本を読んでいる限り「はるまついぶき」とは全然かけ離れた世界。あのピアノや歌詞が国際謀略と似合うとは思えない。あの歌ってなんか和テイストなんだよね〜。だいたい小林武史は新潟県中越沖地震云々って言ってたじゃん。夏のApBankFesが二日間台風で中止になり、やっと開催できることになった三日目の朝、中越沖地震が起きた。それを機に、発表はまだ先と踏んでいた新曲を急きょ配信という方法でリリースする決心をしたとかさ。ちょっと「ミッドナイトイーグル」を読んだ限りじゃその志とはかけ離れ



た内容に思えるけどなあ。なんて、純粹に小説を読まずにそんなことばっか考えながら読むわたしが間違ってるんだろ（しつこいけど小説は案外面白い）。

ところで、この小説では北朝鮮と中国が悪役なのだけれど、歴史的事実でもないのにこういうこと書いていいわけ？そんなこと言ってたらハリウッド映画なんて成り立たないか？（自国の大統領を讃えた映画の多さにわたしは驚くけどね）。確かにK国じゃ雰囲気出ないし緊迫感に欠ける。いかにもやりそうってところがいいんだろけどね。

もうひとつ。慶子の同僚青木君がとてもいい味を出していて、彼こそスーパーマンではないかと思えます（ね、違うこと考えながらも、ちゃんと読んでるでしょ）。

特別参加 うさお（こういう作品にはうるさいのです）

ストーリーは Cacco が述べたとおりである。前の読書リストを読んでもらうと判るが、実は高嶋哲夫は嫌いだ。ストーリー展開が持って回り、空回りするところが嫌いだ。彼自身が原子力学者でなんとその研究に対して、学会賞までとっちゃっているところが大変悔しいのだ。しかもこの「ミッドナイトイーグル」では文章力すらも上げている。

今回の書きっぷりはなんと「真保裕一」ばりなんだよ。すげえ、読めちゃうんだよ。

特にうさおも一時、アウトドア・グッズに嵌まっていたこともあり、雪山のシーンは少しわくわくした。閉鎖された空間（テントね！）の中で、如何に生きて行こうかってところがいいねえ。そんな思い出のうさおのグッズは、屋根裏部屋と物置の中に放り込まれている。う〜ん、悔しいなあ、この小説、面白くて。

映画の中じゃあ主人公は大沢たかおだ。これは小説のイメージだともうちょっと暗いイメージの俳優さんでもよかったかな。慶子の妹役？（実際は慶子の役回り）は竹内結子。でも少し濃い目かも。だから全体的に映画のキャスティングは、もう少しさっぱり系の方が似合うってことかな。（実はうさおはこの映画を観ていません。すべて想像で書いております。はい。）音楽はずいぶん前から Cacco から聞かされておりました。「はるまーついぶき」というタイトルは何を言っているのか、最初は解りませんでした。「春待つ息吹き」。漢字で書け！漢字で！ずーと聞かされていると耳に残っちゃって迷惑だなあ。

読んだら、映画 **ミッドナイトイーグル** を観る . . .

はずだったんだけど・・・てか、実際行ったんです。みなとみらい109シネマズのレイトショーへ。冬山のような恋空、じゃなくて寒空・・・思いもかけないことって起きるもんです。一緒に行った友達が具合が悪くなって45分観たところで帰途へ。わたしだってオニじゃないんだから、いくらなんだって友達ひとりで帰すなんてことはしません（泣）なんかイケナイことしたか、あたし??





45分観た感想は、けっこう話のはしょってある（2時間半しか映画はないんだから当たり前！）。夫婦だった主役のふたりが妻を亡くした夫と、その妻の妹（つまり義妹）という関係に替わっている。これって替える必要があったんだろうか？そのへんも後半観てるとわかるのか？

ライターである妹（竹内結子）が姉夫婦の幼い子供を引き取りながら、仕事に夢中で夜も帰らず、次の日の朝携帯から「気をつけるのよ」のひとつで、夜をひとりで過ごした子供のことを片づけてしまうのがどうにも気に入らない。と、45分の中で印象的な出来事を無理やり探すかわいそうなわたし（しかもこんなところが印象的な）。ああいうシーンをほほえましいとか思う人もいるんで



しょうし、お国の一大事と子供の食事とどっちが大事だって怒る人もいるでしょう。なにしろ日本滅亡の危機に発展するんだから。だったら人を頼むとか、どっかに預けるとか、きちんとすればいいじゃん。それじゃあだらしな義兄から無理やり奪った意味がない（まるで勝手な想像だけ）。

「はるまついぶき」を全然聴けず、竹内結子に八つ当たりか、あたし。

そんなこんなで日は流れ、友達も無事元気になったある日、年間150本も映画を観るかずくんがわたしに言ったんです。

「今年の映画の中でミッドナイトイーグルが一番面白かった。」

はるまついぶきも映画にとっても合ってたよ」

ガガガガガーーーーンン！！！！

確かに「ミッドナイトイーグル」のテレビCMから流れてくる「はるまついぶき」は案外雪山と似合っていたっけ。はあ（ため息）。

ところで、この映画の結末について、うさおと Cacco は賭けをしました。

映画は原作どおりなのか、そうでないのか（大沢たかおは死ぬのか、死なないのか）。

うさおさんは「こういうふうになればいいじゃん」と、その解決方法まであげてたけれど、わたしはあのラストシーンがあってこそ感動も高まると思うんです。さて、どっちだ??

結果はDVDが出たときのお楽しみ。てか、かずくに聞けばすぐ教えてくれるんだけど。

まあ、もう少ししたらわたしの指にはきらきらしたものが輝いているはずですよ。ふふ。★★★

